



バッティング練習に取り組み、技術を磨く選手

日本リトルシニア中学 主催。中学3年生にとつて最後の「夏」となる同硬式野球協会東北連盟の

少年硬式野球の第39回日本リトルシニア野球選手権東北大会は、20日から宮城県内12球場で開かれ、リトルシニア能代は1回戦で秋田(秋田市)と対戦する。発足7年目の今年のチームは総勢13人だが、長打力を誇る少数精鋭。初戦突破を目標に掲げ、日々の練習に励んでいる。

少年硬式野球・リトルシニア能代

まずは初戦突破へ

20日東北大会
秋田と対戦 少数精鋭、打撃に自信

大会は、20、21、27、28日の4日間の日程で開かれ、東北6県から計56チームが出場する。

能代市出身の元プロ野球選手、大沢勉監督(67)が率いるリトルシニア能代は20年に発足。能代山本の中学生13人が所属している。

今年のチームは3年生

2人、2年生8人、1年生3人という構成で、選手層の薄さと経験不足が

ネック。秋田とは今春開かれた県支部大会で対戦し、最終回2死まで追い込みながら逆転負けを喫した。敗因について「2年生と3年生では経験が全く違う。若い選手が多

く、勝つことがいかに難しいかがまだ分かっていない」と大沢監督は分析する。

打線は、チーム一の高打率を誇る越前谷、パンチ力のある田口駿介(2年)、直近の2試合で6打数4安打と上り調子の菊

地悠汰(3年)がクリーンアップを形成。主将で唯一の女子選手・金野蓮(同)も外野の頭を軽々と越える打球を放ち、1番から9番まで高い長打力を有する。

大会が間近に迫り、現在は主にバッティングの調整や細かいサインプレイの確認などの練習に取り組む。金野主将は目の前の1戦1戦を大切に戦い、悔いの残らない勝負をしたい。まずは1回戦突破を目指し、最後にみ

に持ち込むことが多いという。全体的な試合内容は決して悪くない。いいチーム状態に仕上がっている(大沢監督)と、1人ひとりがしっかりと試合をつくれる力を備えている。

投手陣は力強い直球が持ち味の本格派右腕・越前谷竜斗(2年)と、183センチの長身から多彩な変化球を繰り出す佐藤宝良(同)の二枚看板。昨年度から各試合投手の投球数を制限する規定が設けられたため、柴田汰翔(1年)が3人目として控え

る。打線は、チーム一の高打率を誇る越前谷、パンチ力のある田口駿介(2年)、直近の2試合で6打数4安打と上り調子の菊地悠汰(3年)がクリーンアップを形成。主将で唯一の女子選手・金野蓮(同)も外野の頭を軽々と越える打球を放ち、1番から9番まで高い長打力を有する。

- 【監督】大沢 勉
【コーチ】皆川 友紀
【コーチ】米村 洋志
- ①越前谷竜斗(能代一2年)
 - ②柴田 翔揮(能代東2年)
 - ◎③金野 蓮(能代南3年)
 - ④日沼 啓斗(八 森2年)
 - ⑤川村新之助(能代一2年)
 - ⑥田口 駿介(能代東2年)
 - ⑦佐藤 宝良(二ツ井2年)
 - ⑧菊地 悠汰(峰 浜3年)
 - ⑨柴田 汰翔(能代東1年)
 - ⑩佐々木 玲(能代南2年)
 - ⑪岩出 空雅(琴 丘1年)
 - ⑫西部 遥哉(琴 丘2年)
 - ⑬船山 大河(能代一1年)
- (◎は主将)

大会が間近に迫り、現在は主にバッティングの調整や細かいサインプレイの確認などの練習に取り組む。金野主将は目の前の1戦1戦を大切に戦い、悔いの残らない勝負をしたい。まずは1回戦突破を目指し、最後にみ

に持ち込むことが多いという。全体的な試合内容は決して悪くない。いいチーム状態に仕上がっている(大沢監督)と、1人ひとりがしっかりと試合をつくれる力を備えている。